

高木菜那 女子総合初制覇

全日本ジュニアスケート

スピードスケートの第35回全日本ジュニア選手権(日本スケート連盟主催)最終日は15日、明治北海道十勝オーバルで男女6種目を行った。総合(オールラウンド)女子は高木菜那(日本電産サンキョー・帯南商高)が最後の3000mで2位となったが、3種目制覇で初の総合優勝を果たした。スプリント

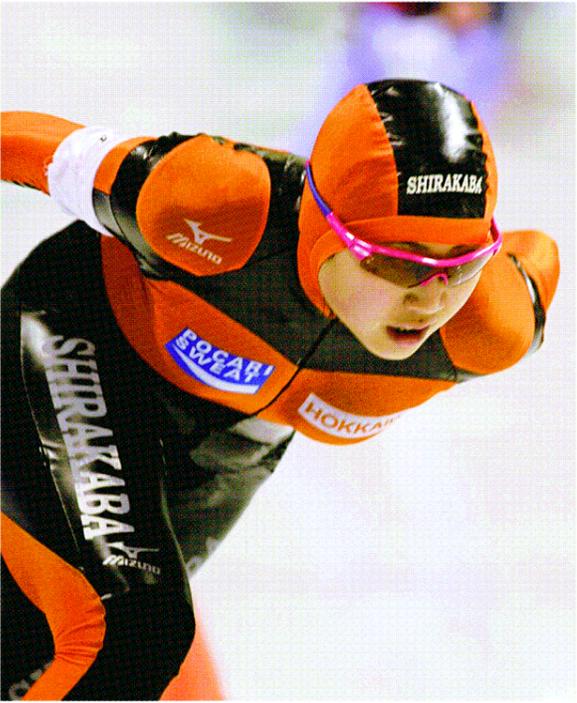
女子は辻本有沙(白樺学園高3年)が最終1000mを制して山根佳子(帯柏葉高1年)を逆転し、初めて総合制覇した。同男子は最終午前までに3種目で勝利を収めている長谷川翼(白樺学園高3年)が首位に立っている。(岡部彰広、小寺泰介、折原徹也)



【総合女子3000m】4分24秒22のタイムで2位となり総合での優勝を決めた高木菜那の滑り

辻本(白樺)逆転初V

スプリント女子 山根(帯柏)準優勝



【スプリント女子1000m】2回目【逆転で総合初制覇した辻本有沙

辻本有沙が最終種目の1000mで2回目で大逆転し、初めて全日本ジュニアの頂点に立った。「自分の滑りができれば結果は付いて来ると信じていた。でも正直驚いています」と笑顔がはじけた。

3種目終了時点で総合順位は3位。首位の山根佳子(帯柏葉高1年)とは1秒12の差。4レース目となる最終レースは「足にきていた」(辻本)が、200mを出発者唯一の18秒台で通過すると、600mを過ぎてから後半も「前へ、前へ」と気持ちで押し切った。

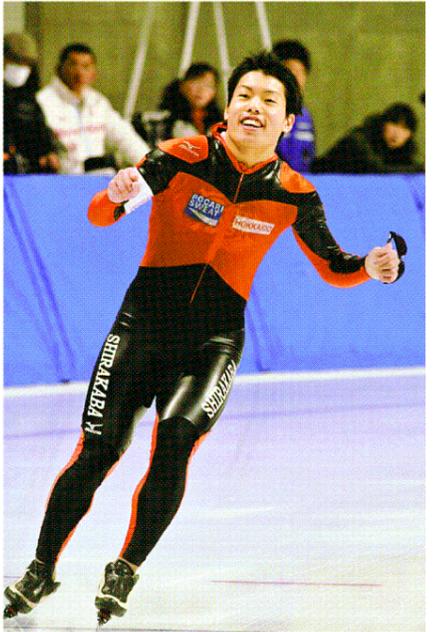
今季は毎日10kmの走り込みなどでかつてないほど自分を追い込んだ。ピーク時

自信つかむきっかけに

辻本 道高校無冠からは上がる

の体重は7kg減。しかし、シーズン当初から記録は出し、先月の全道高校でも予外の無冠だった。その悔しさを糧に短期間で立て直した。コナーでのテンポ良い足運びを覚え「消耗してる部分が減った」。加えて夏場のトレーニングの成果が後半の勝負強さにつながった。「全道高校で優勝していたら、ここまで頑張るという気にはならなかったと振り返る。

進学先は「あこがれの小先輩と練習できる」と信じている。「自分自信を持てるきっかけがつかめたかな。世界の舞台でも戦えるよう、まだまだ上を目指したい」



【総合男子1500m】明治オーバルでの自己記録を更新し、4位に食い込んだ小坂龍は会心の笑み

自己記録に肉薄

小坂

○小坂龍(白樺学園高3年)が総合男子1500mで4位に食い込んだ。昨年、長野・エムウエーブで出した自己記録に0.13秒差と迫る好記録に、ゴール後は思わずやけてしまった。「ウオーミング」アップ

小清水中(オホーツク管内)では全道中学大会500mで4位。高校から500m距離に転向し、昨年のインターハイでは4位となった。今季は思い描いた成績を残してこれなかったが、「毎年1月になると調子が良くなる」と思っていた通り、好感触を得ていた。

同じ高校生に敗れたことには悔しがったが、「速く離された人のうち、近藤太郎(駒大苫小牧高2年)には0.5秒差に迫ること

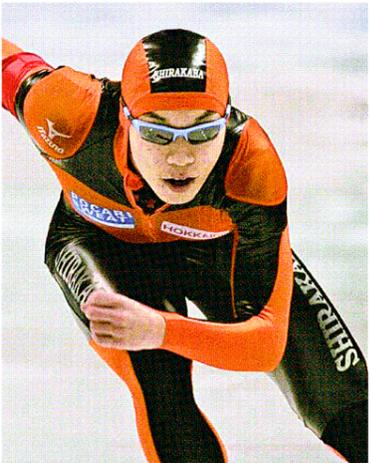
社会人1年目意義ある勝利 高木菜那

唯一の社会人選手としての貴族を見せつけた。前日にワールドカップ大会出発の便を遅らせてまでレースを見守っていた妹美帆の前で、1000mを自己新記録で快勝。得意ではない最後の3000mを前に、2位の樋沙織(群馬・嬬恋高)の約7秒、3位の高山梨沙に約9秒の差があった。最終種目は2位ながら悠々とオールラウンダー女王の座に就いた。

スケートの星の下に生まれ、今大会に出場できるのは19歳の7月2日生まれ以降。高木はまさにその日が誕生日。恩師の東俊一(帯南商高監督)は「持っている選手。1日早く生まれていたら今がなかった訳だから」とこの巡り合わせを生かし、かつ残した結果に思わず感嘆した。

国内トップクラスの実業団チームの一員としての意地もあった。大会前には全日本スプリント後に帯広に残っていた長島圭一郎(日本電産サンキョー、日大・池田高)と、氷上でインターハイに向けて手応えを感じつつある。「もし出たら優勝を狙うのかな」ときっぱり。

【スプリント男子1000m】2回目【長谷川翼は、前日に更新した自らの大会記録をさらに上回る好タイムで制する



○スプリント男子優勝候補の三輪進也(白樺学園高3年)が、故障のため欠場となった。

無念の故障欠場 三輪

筋膜炎となり、この日朝にドクターストップとなった。そのため、好レースが期待されていた長谷川翼(白樺学園高3年)とのトップ争いをふいにした。調子は上がっていたのに、高木が上からこの大会を見守る練習をしてきたが、目標を見失った。長谷川には「頑張ってほしい」と話していた。

(15日・7位以下関係分)

＜スプリント＞					
【男子】7500m 2回目	加藤 条治 (三協精機)	34秒75			
日本ジュニア記録	中村 駿佑 (法大)	36秒51			
大会記録	加藤 条治 (日本電産サンキョー)	34秒96			
リンク記録		36秒25			
①長谷川 翼 (白樺学園高)		36秒25	=大会新		
②後藤 卓也 (帯南商)		36秒86			
③村上 博人 (北翔大・帯工高)		36秒87			
④古市 博人 (群馬・嬬恋高)		37秒15			
⑤北澤 慶記 (明大)		37秒15			
⑥坂本 永吉 (山形中央高)		37秒29			
⑦藤野 裕人 (標茶高)		37秒29			
⑧萩野達哉 (白樺学園高)	37・36⑩松田知記 (池田高)	37・37⑪佐藤裕太 (帯南商)	37・46⑬居城和樹 (帯南商高)	37・52⑮関井翔太 (同)	37・55
⑰宗宮紘汰 (白樺学園高)	37・65⑱西恭平 (帯南商)	37・74⑳森本拓也 (池田高)	37・88㉑戸田亮太 (白樺学園高)	37・98㉒今野明星 (池田高)	37・99
⑳佐藤健 (帯南商高)	38・00㉓佐々木奨之 (白樺学園高)	38・36㉔水野正也 (御影中)	38・46㉕戸田亮太 (白樺学園高)	38・54㉖河瀬拓思 (帯南商)	38・62
㉗阿部啓吾 (帯南商)	38・64㉘渡邊勇人 (白樺学園高)	38・83㉙松井友次 (豊頃中)	38・84㉚葛西尚哉 (鹿沼中)	38・89㉛阿部皓平 (池田高)	38・89
㉜宇佐見裕太 (帯南商)	39・24㉝小野塚健二郎 (白樺学園高)	39・38㉞廣川恵斗 (帯南商)	39・42㉟辻本一史 (大樹中)	39・50㊱前田貴大 (帯南商)	39・70
㊲井口拳吾 (更別中央)	40・18㊳鎌田誠貴 (帯南商)	41・82			
＜総合＞					
【女子】73000m (カルテット)					
日本ジュニア記録	石野枝里子 (白樺学園高)	4分9秒26			
大会記録	高橋 菜那 (白樺学園高)	4分22秒29			
リンク記録	穂積 雅子 (ダイイチ)	4分10秒16			
①高山 梨沙 (駒大苫小牧高)		4分18秒38			
=大会新					
②高木 菜那 (日本電産サンキョー・帯南商高)		4・24・22			
③池田千奈美 (駒大苫小牧高)		4・24・86			
④高橋 菜那 (白樺学園高)		4・25・07			
⑤長屋 千夏 (駒大苫小牧高)		4・25・70			
⑥樋 沙織 (群馬・嬬恋高)		4・25・81			
⑧酒井寧子 (帯南商高)	4・27・55⑩谷垣彩香 (同)	4・30・88⑫川口愛莉 (日体大・帯南商高)	4・32・90⑬山田真以 (帯三条高)	4・36・16	
74種目総合 (最終成績)					
大会記録	高橋 菜那 (白樺学園高)	167.060			
①高木菜那 (日本電産サンキョー・帯南商高)		165.137			
②高山 梨沙 (駒大苫小牧高)		165.679			
③樋 沙織 (群馬・嬬恋高)		166.679			
=以上大会新、リンク新					
④高橋 菜那 (白樺学園高)		167.623			
⑤阿部 友香 (高崎健大)		168.364			
⑥長屋 千夏 (駒大苫小牧高)		170.829			
⑦酒井寧子 (帯南商高)	170.882⑧川口愛莉 (日体大・帯南商高)	171.2			
⑨谷垣彩香 (帯南商高)	172.049⑩山田真以 (帯三条高)	174.192			